

提言書

教育環境の整備について

牧之原市議会

提 言 書

教育環境の整備について

牧 之 原 市 議 会
(文教厚生委員会)

市議会文教厚生委員会では、平成 27 年 11 月から「教育環境の整備について」を所管事務調査事項とし、学校教育の取組状況についての勉強会や先進的な都市の視察を実施するなどして、本市における教育環境の現状と課題について調査研究を進めてまいりました。

市では英語教育・理科教育の推進や情報通信技術（ICT）を活用した授業の実施、特別支援教育など、時代に即した教育内容への転換に積極的に取り組んでいます。しかしながら、児童生徒数の減少や、地域社会・家族形態の変容、産業構造の変化、グローバル化の進展など、急速な時代の変化に順応できる教育環境の整備が求められております。

全ての子どもがより質の高い教育を受け、牧之原市教育大綱の基本理念である「こころざしを持ち 夢ある人」に成長してもらうため、文教厚生委員会では、「教育環境の整備について」意見をまとめましたので、次のとおり提言いたします。

提言内容

1. 学力向上に向けた取り組みの強化

- (1) 子どもの学力向上を実現させるには、長期的に取り組む必要がある。市として複数年における学力向上計画を策定すること。
- (2) 学力低位層の底上げを図るため、各学校への学習支援サポーターを大幅に充実させること。

2. 特色ある教育施策の実施

- (1) 幼稚園から中学校までの一貫した教育理念のもと、連携した教育を推進すること。
- (2) 地域や保護者の意見を的確に反映させることで、地域の創意工夫を生かした特色ある学校としていくために、地域との連携を強化すること。(コミュニティスクールの検討など)
- (3) 子どもが社会的・職業的に自立して強く生き抜くための意欲・能力を身につけることが求められていることから、現在実施されているキャリア教育の更なる推進を図ること。

3. 切れ目のない支援体制の構築

発達に障がいのある子どものサポートには、早期の発見と切れ目のない支援が重要とされている。乳幼児期から就労期まで一貫した支援を可能にするために、健康福祉部局と教育部局が連携できる体制を構築すること。

4. 公立中学校での部活動外部指導者制度の導入

教員の多忙化解消に向けた負担軽減や、専門性のある部活動指導者の確保が求められている。市内中学校の実態把握やニーズ調査を実施した上で、部活動の外部指導者制度の導入に向けて検討すること。